

# ニュースレター

## 日本母乳哺育学会

The Japan Society of Breast Feeding Research

発行 2003年4月12日 第2号

### 第18回日本母乳哺育学会

会長： 戸谷 誠之(昭和女子大学大学院生活機構研究科)

会期： 2003年9月19日(金)・20日(土)

場所：昭和女子大学80年記念館オーロラホール

お問合せ：第18回日本母乳哺育学会実行委員会事務局 昭和女子大学大学院生活機構研究科

〒154 8533 東京都世田谷区太子堂1 7

Tel/Fax 03 3411 4944

### 第18回日本母乳哺育学会学術集会を開くにあたって

第18回日本母乳哺育学会 会長 戸谷 誠之(昭和女子大学大学院生活機構研究科)

第18回の学術集会は、2003年9月19-20日(金、土) 2日間、昭和女子大学のキャンパスで開催することとなりました。是非多数の皆様にご参加いただきたくお誘い申し上げます。

今回の会議では、実行委員の先生方の発案で「母乳に学ぶ」母性と栄養の協調からをメインテーマとして掲げて、母乳研究に関する最近の話題から実際の母乳育児への支援を如何に進めるかなど、興味深い話題を準備させていただきました。

プログラムの一部をご紹介しますと、会議の前日の19日には一般向けの公開講演会を開催します。当日の講師は堺 武男先生(宮城県立こども病院 小児科)と堀内 勤先生(聖マリアンナ医大

小児科)にお願いしています。

特別講演は、韓国檀國大学教授金 乙祥先生に母乳と栄養-韓国女性の研究から-という演題名でお話しいただきます。また、教育講演では理化学研究所微生物研究室長の辨野義巳先生に消化吸収と腸内フローラについてのお話を頂きます。この他に、パネルディスカッション「離乳・母乳育児の継続への支援とは?」-健やか親子21 にむけて-、シンポジウム、母乳の栄養学とその進歩も企画準備を進めています。

多数の皆様のご参加を期待しています。

### 国際認定ラクテーション・コンサルタントについて

国際認定ラクテーション・コンサルタント (International Board Certified Lactation Consultant : IBCLC) という名称を、今までお聞きになった事がありますか? 日本ではまだ馴染みのない方も多いと思いますので、これから IBCLC という国際資格とその業務・倫理について簡単にご紹介いたしましょう。まず、IBCLC とは何か。これは母乳と母乳育児に関する一定水準以上の知識を持って、母乳育児を行なう母子を支援するヘルスケア提供者の事です。この専門資格取得のための試験は、アメリカに本部を置くラクテーション・コンサルタント資格試験国際評議会 (IBLCE) が1985年から毎年1回全世界共通認定試験として実施しています。現在、北米とオーストラリアを中心に全世界に約1万人、日本には約40人のIBCLCがいて、さまざまな母乳育児支援・教育・研究の場で活躍しています。

試験は、看護師、助産師、保健師、医師、ソーシャルワーカー

一、栄養士、理学療法士、教育者等の専門職をはじめ、母乳育児援助経験と確実な知識体系を持つ非専門家に広く門戸が開かれています。母乳育児のプロセスには複雑多様な要素が含まれるため、一定水準の共通知識基盤を持った多領域の専門家による的確な支援が必須となります。受験資格条件は受験者の職業やキャリアによって異なります。例えば医師は900時間以上、看護職では教育背景が4年制大卒以上の場合2500時間以上、短大卒の場合は4000時間以上の母乳育児コンサルテーション経験と、試験を受ける前の3年間に45時間以上の母乳育児に関する専門教育時間が必要になります。また、IBCLC取得後には5年ごとの資格更新手続きがあります。

また、専門職としてのIBCLCには、明文化された業務基準と倫理規範があります。業務基準では、カウンセリングのアプローチによってクライアントを支え、情報やケアを提供しながら問題解決を図ることが重視されています。さらに、倫理規範には「客観的に、しかも個々人のユニークなニーズと価値観を尊重しながら、専門的なサービスを提供しなければならない。」

「クライアントが、情報公開された上での選択ができるように、十分な情報を提供しなければならない。」また、「科学的な原理、最近の研究、最新の情報に基づいて業務を行わなければならない。」「立証された情報を提示し、賛否両論ある情報については正当な異論があることを認識し、偏見をもたずに解釈しなければならない。」「WHO コードに概説されている医療従事者のためのガイドラインを守ること。」などがあります。

これらは現在の母乳育児支援において曖昧になりがちな点ですが、支援にかかわる専門家はその実践において意識を喚起すべき項目でしょう。

このような IBCLC 出現の動きのなかから、日本の母乳育児支援の実践が発展的に見直され、最終的ケアの受け手である母乳育児をするお母様、赤ちゃんそしてお父様をはじめご家族皆さまに、よりの確で温かい心のこもったケアが提供できることを願っています。

井村真澄 (東京大学大学院医学系研究科、IBCLC)

《問い合わせ先》

1. IBLCE オーストラリア支部

(日本を含むアジア・太平洋地域・南アフリカ・アイルランド・英国担当)

IBLCE PO BOX 13 SOUTH HOBART TAS 7004 AUSTRALIA

ROS ESCOTT, IBCLC

PHONE:+61 3 6223 8445 FAX:+61 3 6223 8665

[office@iblce.edu.au](mailto:office@iblce.edu.au) [www.iblce.edu.au](http://www.iblce.edu.au)

2. IBLCE 地域コーディネーター (日本担当)

〒471-0078 愛知県豊田市昭和町2-22-3 イトーピア豊田 -202

金森あかね, IBCLC FAX:0565-32-2943 [Japan@iblce.edu.au](mailto:Japan@iblce.edu.au)

3. 日本ラクテーション・コンサルタント協会

〒065-0023 札幌市東区北23条東1丁目7-5

日本ラクテーション・コンサルタント協会 (JALC) 事務所

FAX:011-733-3188 [info@jalc-net.jp](mailto:info@jalc-net.jp)

JALC ホームページ: <http://www.jalc-net.jp/>

## 第17回日本母乳哺育学会学術集會を主催して

第17回日本母乳哺育学会会長 佐藤 郁夫

第17回日本母乳哺育学会は2002年9月28日(土)、29日(日)の両日宇都宮市の栃木県総合文化センターで約200名の参加を得て開催することができました。厚生労働省は一昨年から「すこやか親子21」と題して、わが国の母子保健に関係するすべての組織や団体と協力して、国民が安心して子供を産み、ゆとりをもって健やかに育てるための家庭づくりや、各地域における環境づくりを目指すための国民運動を展開しておりますので、この学会では母乳哺育が少しでも促進されることを期待してプログラムを作成致しました。

まず特別講演では聖マリアンナ医科大学の堀内 勤教授に「母乳哺育とカンガルーケア」と題してお話をいただき、会員

は感銘を受けました。教育講演では大阪府保健福祉部地域保健課参事の島本太香子先生に「母乳と喫煙」と題して、たばこの健康に及ぼす影響を分かりやすく解説していただきました。シンポジウムでは「母乳哺育推進のための秘訣とジレンマ」と題して各分野で御活躍の4人の先生に講演とフロアとの間でもホットな討論がなされました。

一般演題も18題を数え、いずれも内容的にも充実しており、会員から沢山の質問が相次ぎ2日間の学術集會を通して満足感を味わいながら第18回の学術集會での再会を約束して成功裡に終了することができました。

最後に本学会に参加された会員の皆様へ感謝致します。

## 第17回日本母乳哺育学会学術集會シンポジウム 『母乳哺育推進のための秘訣とジレンマ』

### 1. 母乳哺育推進のための秘訣とジレンマ

梅田 啓蒙(梅田病院)

母乳で育てるといことは哺乳類として当たり前の行為(生物学的当為)なのに、うまくいっていないのが現状です。若い現代人のお母さん方のほとんどが母乳で赤ちゃんを育てたいと思っているのにも拘わらず、周囲にはそれを阻止する因子が色々あるのです。

我々のまち、山口県光市は、行政による因子をなくすべく、世界で初めての「母と子と父そして人にやさしいまち」をキャッチフレーズに、おっぱい宣言都市となりました。お蔭様で、行政の協力も得られ、スムーズに行き、保健師さんはじめ、母

子推進委員の方達も一生懸命頑張っておられます。出来れば世界中のまちがこうなればいいと思っています。

次に、身近な因子として、家族があります。丁度人工栄養最盛期に育児をした人達がじじ・ばばになり、無責任な立場で、孫はかわいいものだから、のんだ量を知りたがる、ミルク型体重増加を求める。泣くのを嫌う、のむ以外は寝ていると思っている等であります。

当院では、これら退院後の母乳哺育の敵を仲間にするために、J・B・P(じじ・ばば・ばば)教室を開いております。かなりの効果があります(新米ママのためのサポートづくり)。しかし、一番手ごわいのは何といても行政の上の方と、企業による因子だと思えます。是非、厚生労働省も乳業会社も、母乳哺育に理解して頂きたいと思えます。すべての道はローマに通ずと申しますが、いま世の中に起っている嫌な社会現象のほとんどが、母乳哺育に通ずと申すにしても過言ではないと思えます。

## 2. 母乳哺育推進のための秘けつと自宅出産

神谷 整子(みづき助産院)

いつの頃からか、母乳哺育が自然回帰の流れの一つとして見直されるようになり、出産を扱う施設では、施設方針の一項目として「母乳哺育の推進」を掲げることが珍しくなくなってきました。これはミルク全盛時代の反動というだけでなく、“母乳哺育の存在”の意味があらゆる方面から検討され、単に栄養学的に優れているだけではないことがはっきりしてきたからでしょう。

私は平成7年よりおもに自宅での出産に関わらせて頂くようになり、それまで以上に妊婦さんの身体と心に真剣に向き合うようになりました。なぜ「自宅で産みたい」のか、どうして「自宅で産みたい」のかを伺いながら、どうしたらその想いが成し遂げられるのか援助する立場から妊婦さんと一緒に考え、悩み、工夫をしてきました。身体はもちろんのこと、心(気持ち)も出産に備えて整えていく過程で、妊婦さんは真正面から自分や夫、家族と向き合うこととなります。自問自答を繰り返しながら、必要なアドバイスを受け入れ、実行に移していくことで、日常生活での自己管理がさりげなく身に付き、それが少しずつ自分への自信となっていくように思います。そのようにして、妊娠の10ヵ月の期間を自分なりに納得して過ごされた方々のほとんどは、心身が開放され、自分なりの出産をされます。そして、わが子を自分の胸に抱き取ったお母さんの顔は、何とも誇らしげで慈愛に満ち溢れています。その後赤ちゃんは自然に授乳を開始し、約2時間くらいはどのような乳頭であっても吸い付いています。これでほぼ乳管は開通し、次の授乳からは文字どおり、「泣いたら飲ませ」を繰り返し、産後3~4日もすれば、母乳授乳は確立します。心身への不必要な負荷がかからない出産こそ、母乳哺育を推進するための大きな一歩にちがいません。

## 3. 母乳育児成功のこつとジレンマ

- 低出生体重児の場合 -

大山 牧子(神奈川県立こども医療センター  
周産期医療部新生児未熟児科)

低出生体重児にとって、その児の母親の母乳(own mother's milk)は、児の未熟性に適した栄養を提供し、消化吸収が良好で、腸管のぜん動・成長促進が得られ、懐死性腸炎、敗血症、日和見感染のリスクを減らすことが分かっている。極低出生体重児(出生体重1500g、以下VLBWと略す)の最良の栄養方法は、母乳を基本とし、母乳添加物質やミネラル・ビタミンを補うことである。

低出生体重児、特にVLBWを出産した母親は、母乳育児を選択する率が高い傾向がある。そして、分娩後24時間以内に搾乳を開始し、1日8回の搾乳を継続すると母が退院時(産後6-10日)の母乳栄養率は極めて高い。VLBWには、児の重症度にかかわらず、生後できるだけ早期(24時間)から、極少量の母乳(新鮮な母乳が望ましい)を与えることで、腸管の蠕

動を高め、常在菌叢を定着させ、full feedingになる日齢を早くできる。しかし、生後1ヶ月頃からown mother's milkの分泌量が低下し、児が退院した後まで母乳で栄養される率は低いようである。

VLBWを出産した母が退院後も母乳育児を継続する要因には、成熟児で言われているような、高年齢・高学歴・前回の母乳育児の経験・社会的経済的要因の他に、産後早期からの頻回搾乳、1日6-7回以上の搾乳の継続、産後2週目の乳汁分泌量500ml/日、カンガルーケアの実施、入院中の直接授乳の回数、および退院前の母子同室が挙げられている。母乳育児支援が十分されている施設では、母子の疾病、児の呼吸管理期間、母の教育程度は母乳育児率に影響しないと言われる。むしろ、在胎が低い児のほうが、直接授乳の練習機会が多く、早い修正週数で直接授乳によって全量飲めるようになったという報告もある。ここでは、ディベロップメンタルケアの一環として母乳育児を位置づけ、低出生体重児が直接授乳で退院できるよう援助する際のポイントについて報告した。

## 4. 母乳育児と歯の考え方

青葉 達夫(青葉こどもと親の歯科医院)

おっぱい中止攻撃にさらされて：

母乳育児をすすめる上での問題のひとつに虫歯があげられる。母乳そのものは主因となりえないが、授乳の仕方に問題がある場合は、現実には母乳育児が誘引と思われる虫歯が発生し、そのために多方面から、指導という名のおっぱい中止攻撃により、母乳育児を断念せざるをえないケースがあることは否めない。

では、虫歯にしてまでも続ける母乳育児と、授乳を中止して虫歯にさせないことと、どちらが大切であろうか？悩むところである。理想をいえば、母乳をあたえていて、かつ、虫歯にもしないことである。そこで、当院の行なっている母乳育児と虫歯予防を両立させる口腔衛生の指導法を紹介した。

歯科医師としてのジレンマ：

授乳によると思われる虫歯を見つけてしまったとき、はたして歯科医師として、それでも母乳育児がすばらしいと言い切ることが出来るのであろうか？これは確固たる信念と、自身の歯に対する考え方を要求されるが、歯医者として決して妥協することなく理想に近づくための指導が出来れば問題ない。

そこで、それでも虫歯をつくってしまった場合の指導の仕方を紹介する。歯科医師として自分の本分を少しも譲らず、最高の医療を患者に提供するための考え方を紹介する。すなわち、小児歯科の目的は健康な永久歯の構築にある。乳歯の虫歯も予防するにこしたことはないが、たとえ出来てしまったとしても、その後での永久歯萌出に際し、いくらでも取り返しがつくことを理解していれば、いたずらに目前の事象に一喜一憂することもなく、大局を見据えた指導ができる。つまり、乳歯と永久歯のそれぞれの固有の特徴を理解し、どの時期に何が大切なのかを常に考えておく必要がある。口腔内の歯の状態と乳幼児の、からだ、こころの発達とを総合的にかんがえた指導が必要となってくるのだが、指導の際に我々が陥りやすい問題点として、乳歯の時期の過度の甘味制限がもたらす弊害や、現状での仕上

げ磨き指導の盲点、間違ったフッ化物の応用方法、貧弱な虫歯予防の啓蒙の改善などを反省し、幼若永久歯の保護を第一に据えた総合的な感覚を歯科医自身が養う必要がある。

母乳育児に限らない口腔衛生の考え方：

これらの考え方は、母乳育児に限らず、こどもの歯の全般においての基幹をなす考え方であることを理解してもらいたい。

母乳育児だけが、けっして特殊な理屈をこねているのではなく、ぜひ、広い分野で、それは医科と歯科の専門を越えて、母親のこどもの歯に対する考え方の指針となしてほしいと願っている。歯の分野での母乳育児のジレンマは、実は歯に関する子育て一般の問題でもあることに気づくだろう。

## 母乳哺育は時をこえて

小林 美智子 (長崎県立シーボルト大学  
看護栄養学部看護学科)

山々に囲まれた長野県から海に囲まれた長崎県へ来まして4年が経ちました。この春初めて卒業生を送り出します。質の高いケアができる看護師に育って欲しいと願っています。母乳哺育の大切さを、お母さん、お母さんになる人たちに正しく伝え、あたり前のこととして母乳哺育を実践できるように必要なケアができる看護師の教育ができただろうかと自己反省しています。窓に目を移しますと大村湾が春霞にけづいています。

海よ、僕らの使ふ文字では、

お前の中に母がある。

そして母よ、仏蘭西の言葉では、

あなたの中に海がある。

三好達治 郷愁

海を見るたびに思い出す詩です。母の字の由来は双の乳房です。幾つになっても母を命と心の故郷のように思うのは、母乳という生きるエネルギーの源をもらったせいでしょうか。

生まれてくるどの子も母乳を飲んで育ち、母となった女性は母乳を飲ませて育てることができるような地域社会であってほしいと願いながら、母乳哺育に取り組んで来て30年になりました。

このたびは2004年の第19回日本母乳哺育学会を担当するようにと仰せつかり、どのような学会にしたらいいかと不安ですが、人類にとっていつの時代にも大切な母乳哺育を今の時代に照らして次の世代へと繋がるよう皆さんとともに考えてみたいと思います。

非力を省みずお引受けしましたが、長崎の特長を活かし多くの皆さんがご参加いただけるようお願いしながら準備を始めます。

### 編集後記：

桜の花見の時期に、日本母乳哺育学会ニュースレター第2号を発行することができました。

第2号には本年の第18回日本母乳哺育学会開催の案内のほかに、昨年の学会発表のうちシンポジウム「母乳哺育推進のための秘けつとジレンマ」や来年長崎で本学会を主催していただく小林美智子先生のメッセージをのせることができました。また、「ラクテーション・コンサルタント」の解説を井村さんにいただきましたので、ご一読下さい。母乳哺育にかかわっている方々に、up-dateな情報をおとどけするものにしてゆきたいと思いますので、皆様方の投稿も歓迎いたします。(文責：植地 正文)

《日本母乳哺育学会事務局ニュースレター、第2号》

2003年4月12日発行

発行：日本母乳哺育学会

発行者：小林 登

編集責任者：植地 正文

(事務局より：今回からニュースレターの編集を植地先生に願うことにいたしました。)

日本母乳哺育学会事務局：東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻発達医科学教室

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 Tel / Fax 03-5841-3629

E-mail : hushijima-tky@umin.ac.jp URL : <http://square.umin.ac.jp/bonyuu>

ホームページを開設しました。どうぞご覧ください。

URL: <http://square.umin.ac.jp/bonyuu>